

創立 77 周年記念礼拝の朝を迎えました。兄弟姉妹とともに、祈りを合わせることが  
できる幸を、心から感謝いたします。そして、離れた場所から、心を合わせておられ  
る方々にも思いを馳せます。この共同体に、これからも主の恵みがありますように。

### 幸せの見つけ方

私たちは、幸せだ、と思う時もあれば、最悪だ、と思う時もあります。誰しも、1  
日の中に、良いことも悪いこともあるはずです。でも、何となく、または忙しく毎日  
を過ごしていると、その幸せや恵みは「当たり前」になり、残念なことやガッカリす  
ることは「ありえないこと」になり、自分の幸せを、見失っていくことが起こってし  
まうのではないのでしょうか。

聖書は、幸せの見つけ方を示しています。それは「兄弟が共に座っている時間」な  
のです。「故郷は遠くにありて思うもの」という言葉があります。兄弟と共に最後に  
食卓を囲んだのはいつのことだったでしょう。懐かしい風景を思い出すなら、自分の  
幸せと恵みを見つけたも同然です。

イスラエルの人々は、バビロン捕囚という、国家全体が強制連行されるという苦難  
を味わいました。大帝国に、プライドも財産も信仰も踏みにじられたのです。この  
133 編は、そのような境遇の中で、祈りの歌として生まれたと言われています。一見  
何気ないのどかな食卓の描写でありながら、それがどれほど大きな恵みであったか  
ということ振り返る、人々の熱い思いが、その内側に溢れています。

### 交わりの時

年頭に、昨年の献堂 15 周年の礼拝でこの御言葉が心に響いたことを紹介しました。  
しかし、其枝幼稚園の後援会報を読み返していて、もっと早くからこの御言葉に自分  
が捉えられていたことに気づきました。それは、昨年度の幼稚園の謝恩会の席です。  
なかなか思うように集うことができなかつた中で、全員が出席できること、またおう  
ちの方々と一緒に過ごせる時間、それが何よりの幸せ、恵みであると思ったのです。

当たりの毎日こそ、いつか振り返って見れば一番大きな幸せ、恵みなのだと言い  
換えることもできるでしょう。

それならば、どうして私たちは普段の生活を大切にしないことがあるのでしょうか。  
特別なことが幸せでなく、世間の注目を集めることが幸せでもないのです。自分を大  
切にしてくれる人がそばにいること、食事を美味しくいただけること、会話があり、  
交わりがそこにあること、ここに神様が私たちに与えてくださる恵みの全てが現れて  
います。教会が、この恵みの源となることを願っていきましょう。洗礼を受け、新し  
く神の家族となる若い二人にも、この恵みと喜びがあることをお祈りいたします。